

羊ヶ丘養護園安全委員会だより

羊ヶ丘養護園 VOL.51 令和4年8月2日 発行者 松本

第60回安全委員会が7月25日に開催されました。

今年度2回目の安全委員会を開催させて頂きました。報告ケースは令和4年5月1日から令和4年7月3日までの全14ケースでした。会議の冒頭、当日中学校で行われた中体連報告会での出来事が話題となりました。サッカー部のキャプテンを務める当園の中3R君が、結果報告を兼ねた自身の壮大な夢の話全校生徒の前で熱く語った事で体育館が熱気に包まれた事。その話を受けて越田校長先生が本児の成長と夢に向かって突き進む姿勢を評価してくれた事は、彼の人生に於いて大きな自信につながったものと思います。少し前までは安全委員会の常連であった本児が、暴力以外の事で活躍できるようになったことに、施設職員もなんだか気持ちがほっこりさせられました。さて、今回報告した14ケースはいつもと顔ぶれは変わらずとも、それぞれに環境、心境に変化のあった児童のケースです。まだまだ先が見えない子どもたちですが、今回のR君のように大きく成長してくれることを期待したいものです。

安全委員会と機関連携について

安全委員会活動を通して私たち施設側と各関係機関の皆様が連動する事で、当園の園長が会議の中で申し上げたように児童に関する日常の情報共有や連携した指導体制の構築もスムーズになってきていると思います。今回の報告でも取り上げられた小2男子や中1男子のケースも実は施設だけではなく学校でのトラブル(暴力や暴言)も非常に多いと聞いています。発達上の課題が大きく、環境の変化に敏感な彼らの成長を見守り育むためには、施設内外の児童の担当者レベルのみならず、あらゆる情報共有のチャンネルを持つことの重要性を感じずにはられません。

その他、今回の会議では学校内外でトラブルの多い児童の発達課題についても、澤委員長よりご意見を伺いながら話し合う事が出来ました。ここ数カ月、幼児を含む暴力の報告件数も増えおり、子どもたちの置かれている状況への理解と対応がより一層求められていると思います。

高1 H君の委員長注意！！

4月、念願の体育系学科のある高校に入学したH君でしたが、本児の認知のズレからくる理想と現実のギャップと人間関係の悩みからほどなく不登校となりました。また、施設内での年下への暴力行為や類似するトラブルも重なり、振り返りと暴力行為の抑止を目的として、今回委員長注意を実施する事となりました。

それぞれ関わった暴力について澤委員長より尋ねられるも、本児は正しく整理できず苛立ったり、「分からない」、「覚えてない」と答える姿が多く見られ、自身の置かれている状況についてもあまりよく理解していない様子でありました。

澤委員長や同席した園長より、このままでは次回は嚴重注意もあることや、今後は児相の通所やアルバイト等を通して「自分を知る機会」を多く持つことが良いですねとの助言を受けて注意は終了しました。

嚴重注意後の児童の様子

前回5/27に開催された安全委員会にて嚴重注意となった高校3年生のB君ですが、その後暴力を繰り返すことなく、部活動にも打ち込み、7月をもって無事野球部を引退しました。本人は「3年間やり切りました！！」と清々しい笑顔で最後の試合の日の夜に職員に報告してくれましたが、その後今度はいよいよ進路に向けて舵を切ってくれるものと思ったのですが、今まで部活で埋めていた時間はそっくりそのまま余暇の時間となってしまう、帰園が遅くなる日も増えてきました。またここにきて進路の話が振り出しに戻ったB君ではありますが、溢れるエネルギーを是非とも自身の自己実現に向けて使えるように今後も見守っていければと思います。

発達課題が大きい子への対応に、いつも真っすぐにばかり投げかけていても上手くいかないものだなあーと感じつつ、なかなか球種が増えないといったところが今回の報告ケースから見て取れる私たちのケア上の課題の様に思いました。外部の先生方のご意見も取り入れながら私たち職員がもっと子どもたちの課題を理解し、その対応に知恵を出し合う事で、子どもたちの変化に柔軟に対応出来るような処遇力を育める様に今後も努力していければと思います。

児童指導員 松本 拓己